

お金には換えられない 私の楽しみ

俳人 金子兜太

強いて言えば「毎日」

—— お金に換えることができない楽しみ、ぜいたくを聞かせていただきたいと思っっているのですが。

うーん、あんまり考えたことはないからなあ。すぐ思いつくことはないなあ。

—— 戦争で多くの戦友を亡くされた金子さんに、楽しみとかせいたくとか、聞いちゃいけないかなとも思っつのですが……。

いや、それはない。そんなことはまったくなくてすよ。楽しみは楽しみでいい。ただね、あなたが言うお金をかけない楽しみ、ぜいたくと問われると何だろうな、となる。考えたことなかったからなあ

もない。何の変哲もない日々だが、その中でも人と電話で話したり、会ったり、電車乗ったりといった出来事はあるわけで、そんな出来事が積み重なって日常が作られている。そうしたことが感じられると、毎日というものがえらく面白いものに見えてくる。とりたてて何かがなくてもいい。そんなふうにありますね。

ただそんなふうに感じられるのも、私の場合、息子夫婦が背後を支えてくれていることが大きい。暮らしの背後に不安がない。それは幸せなことだと思いますね。息子夫婦には感謝しますよ。

—— 「ああしたい、こうしたい」という欲望の実現

……そうあらためて問われると……うん、そうだ、

そうだ、強いて言えばですがね、私の場合、毎日が楽しい。たとえいまあなたとこうして電話で話している。こういう出来事もまた楽しいわけだ。辛い元気で、毎日なにかしら仕事や用事があるが、それは私にとって自然なことだし、その自然なこと自体が楽しい。だから死ぬなんてことは考えたこともない。「早く死にたい」とこぼす年寄りがいりませんが、私はそんなこと考えたこともない。考えようが考えまいが、どうせ死ぬわけですから(笑)。

—— 繰り返される日常そのものが楽しい、と。

変化に富むわけではない、ほのかな暮らしから立ちのぼってくる妙味。そういうものは、よく考えてみれば、何とも言えないのですよ。だから格別、何かがなくてもいい。毎日毎日やって来ては続いてゆく日常。日々それを、そんなもんだと確かめながら過ごす。朝起きて食事をしたりウンコしたりして夜になれば眠くなって寝る。要は、人が生きるということは、その繰り返しをしてるだけで、何の変哲

こそがぜいたくというのは、それこそ過ぎたるぜいたくですね。

いや、それはそれでいいんだ。楽しみ、ぜいたくをどう考えるかはその人しだいだから。お金に換えられない楽しみは何かと問われたら、私の場合、毎日が楽しいとなるんだ。それもあなたが聞いてきたから考えてみただけのこと、そんなことを考えるきっかけすらも、今日という日常の中にあつたわけだ。つまり毎日というものは、なんと楽しいものかとなる。私の場合、そこに尽きるという感じがあるなあ。

(構成・編集部)

大好評3刷!

伝説のホテルマンが伝授!

友好を深める 12カ条

伝説のホテルマン
林田正光

人脈づくりの基本。それは「相手に尽くす心」。



定価5000円(税込)

第三文明社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-23-5

TEL.03 (5269) 7145

FAX.03 (5269) 7146

●かねこ・とうた 1919年埼玉県生まれ。同人誌「海程」主宰。朝日俳壇選者。紫綬褒章、詩歌文学館賞、NHK放送文化賞、日本芸術院賞、毎日芸術賞特別賞など受賞。文化功労者。「金子兜太全句集」(立風書房)、「金子兜太集」(全4巻、筑摩書房)など。